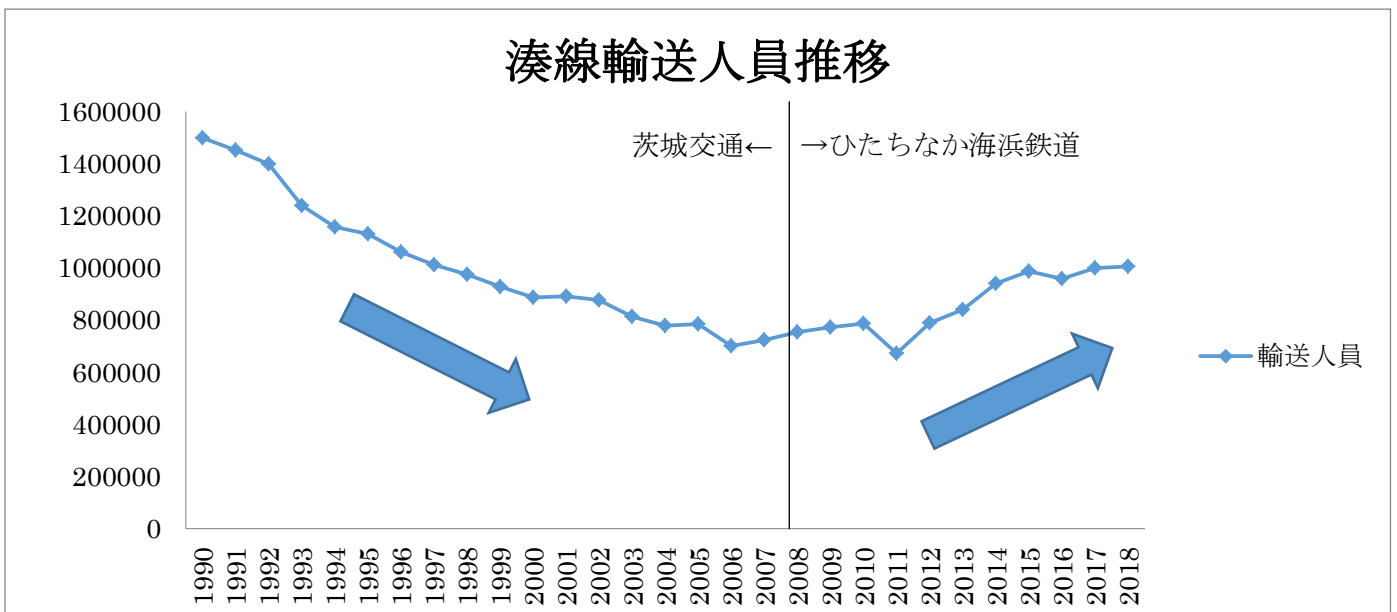
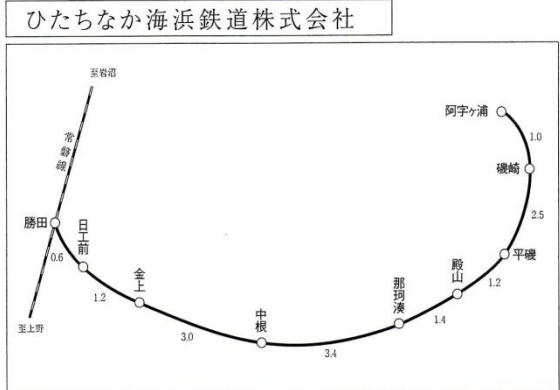




鉄道・バス復活の鍵は 市民協働

■岡山は路面電車があり、バスがありと公共交通が非常に充実していますが、今後は人口減少や少子高齢化の進展によって今の水準を維持することが困難になってくることが予測されます。実際にここ10年間でもほとんどの路線で減便や廃止が進んできました。しかし、街から電車やバスがなくなってしまうたら、子どもは学校に行けなくなり、車が運転出来ない人はたちまち買い物にも行けなくなり、地域から人が出て行ってしまいます。このまま利用が減り続ければ、自分たちの地域がなくなってしまうかも知れません。地域の未来を創るためには、市民の皆さんの力が必要です。みんなの力で未来は変えられます。今回は市民の力でV字回復を果たした茨城県のローカル線をご紹介します。

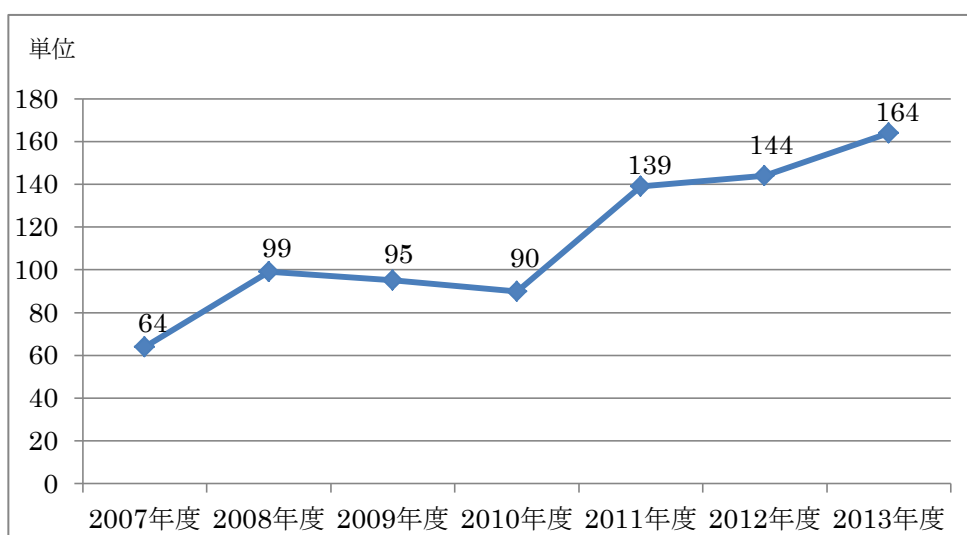
■茨城県ひたちなか市を走るひたちなか海浜鉄道は全長14,3kmの短いローカル線です。この鉄道はかつて少子高齢化やモータリゼーションの進展によって廃線の危機にあった路線です。2007年には年間の利用者数が1990年と比べて約50%近くにまで減少していましたが、地域住民の熱心な活動によって存続が決定しました。現在では利用者数が回復傾向にあり、新駅の設置や路線の延伸が決定するなど、多くの「奇跡」を生み出しています。



■ひたちなか海浜鉄道湊線の利用者が回復した理由はいくつかありますが、その中でも大きかったのが「市民による応援団の働き」です。ひたちなか市では人口の減少や自家用車の普及などによる市内の渋滞の悪化等により

地域全体が衰退傾向にありました。このような状況に危機感を持った地域住民の間ではかねてから地域の活性化に向けた協議会が設立されていました。実際に人口は沿線の中心地である那珂湊地域では 1990 年から 2013 年の間に 10%以上も減少し、商店街の店舗数も 3 分の 2 近くにまで減っています。これら地域の実情を浮き彫りにするような形で沸き起こったのが、民間企業「茨城交通」による湊線の廃止届提出問題です。長い期間、利用者が減少し続けており今後の維持は困難として 2005 年 12 月に市に対して湊線の廃止を市に打診しました。このニュースはすぐに広まり「このまま鉄道がなくなれば地域の衰退がさらに加速する」という危機感が住民の間で広がります。この危機を打破するために発足したのが「おらが湊鉄道応援団」と呼ばれる市民による公共交通の応援団体です。この応援団の特徴は単なる鉄道の維持が目的ではなく、地域の活性化が目的であり、鉄道はそのための手段として応援するという形をとったことです。自治会や商工会議所など様々な団体が集まり、それぞれが個性を発揮するように、活動を実施しました。例えば、写真が得意な人は毎朝ひたちなか海浜鉄道沿線の写真を撮り続け SNS にて情報発信をしたり、商店街と連携して鉄道利用者向けに観光マップの配布や商店街の割引券の配布など、それぞれの個性を活かした活動を展開。鉄道会社や市も巻き込んで活動は活発化していき、2007 年 9 月に廃止届の撤廃と、新たに第三セクター方式での新会社「ひたちなか海浜鉄道」による再スタートが決定しました。まさに地域に住む人々、みんなの勝利と言えます。

■ 応援団の活動は存続決定後も活発になっており、年ごとに連携先や活動日数が増えていっています。グラフからも分かる通り、応援団の活動日数は年を追うごとに増加しており、提携先も地域内外の学生や企業、NPO 法人など多岐にわたっており応援団の活動の発展が鉄道の再生状況と一致していることが分かります。つまり、地域の衰退が公共交通の衰退として現れるのならば、地域の復活もまた公共交通に現れる、ということです。なぜ



ならば鉄道やバスなどの「生活の足」は長い年月をかけて地域の生活に根づいた、貴重な財産だからです。応援団やひたちなか海浜鉄道の取り組みは全国でも高く評価されて、2011 年度には地域づくり総務大臣賞を受賞するに至っています。

■ 「どうせ無理だ」と諦めてしまったら、ひたちなか市では鉄道がなくなり、さらに地域の衰退が進んでいたかも知れません。しかし、地域の皆さんが協力すれば危機を乗り越えて街や未来を変えることができます。人口 10 数万人のひたちなか市に出来て、岡山市に出来ないわけはありません。地域の皆さんが力を合わせれば少しずつですが街を変えていくことができます。この街にはバスもあり、路面電車もあります。便利な路線もありますが、今後は人口の減少や少子化などによって維持するのが難しくなっていく路線が増えていくでしょう。自分たちが住む街をみんなの手で守っていく決意が今、必要です。

NPO 法人公共交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

